

会議録

会議の名称	西東京市文化財保護審議会 平成25年度第4回会議
開催日時	平成26年2月14日（金曜日）午前10時から正午
開催場所	保谷庁舎1階 会議室
出席者	委員：鈴木委員、石井（則）委員、石井（正）委員、近辻委員、都築委員、 マ々良委員 保坂委員、山下委員 事務局：山本課長、吉田係長、亀田文化財保護専門員
議題	協議事項 (1)登録文化財制度など、今後の協議事項について 報告事項 平成26年度文化財事業予定について (仮称)西東京市文化財保存・活用計画について 下野谷遺跡の指定について 文化財事業実施報告 ・埋蔵文化財事業 ・その他の文化財事業 その他 市内文化財視察についての意見交換 次回審議会の日程について
会議資料の名称	資料1 今後の協議事項について 資料2-1 (仮称)西東京市文化財保存・活用計画について 資料2-2 「(仮称)西東京市文化財保存・活用計画」策定スケジュール 資料3-1 下野谷遺跡の指定について 資料3-2 下野谷遺跡全体図 資料3-3 下野谷遺跡 西台地全体図 資料4 埋蔵文化財調査一覧 (H25.11.19-H26.2.13) 資料5 文化財事業一覧 (H25.11.19-H26.2.13) 資料6 下野谷遺跡講演会企画書 その他の配布物 みんなの生涯学習 114号
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>会の成立</p> <p>・前回会議録の確認、訂正、決定。</p>	

- ・会議資料の確認。

議事1 報告事項

(1) 平成26年度文化財事業予定について

○事務局：

平成26年度の文化財事業の主なものについて説明する（資料無し）。

報告事項（3）下野谷遺跡については、国史跡指定に向けて動いていくことが、庁内で調整が整った。文化庁の視察も受け、国の史跡にふさわしい価値があるとされ、市長以下理事者の意見もまとまり、市として、正式に取り組んでいくこととなった。

報告事項（2）西東京市文化財保存・活用計画については、文審から出していただいた建議の中でも、保存・活用計画を策定し、それに沿って文化財行政を進めるようにとの意見をいただいた。そこでこのたび、予算の内示も受け26、27年度の2カ年にわたり、文化財保存・活用計画の策定を進めていくことになった。

さらに、27年度の庁内組織改正に向けて、学芸員の配置と、文化財担当課、最低限でも、担当係の設置を要望する声を上げている。27年度に向けては、下野谷遺跡の国指定も懸案事項としてあるので、組織の体制の整備を強く推していきたい。

また、啓発事業を含め、少し連続的な文化財事業の実施を考えている。先日、早稲田大学の東伏見にある部署と調整し、3月に講演会を行うことになった。来年度についても早稲田と連携し、会場の提供などを受け、連続講座も考えている。下野谷遺跡のPRのため啓発グッズの予算の内示も受けている。

このように、来年度は文化財について、力強く進めていきたい。

下野谷遺跡の国指定にするとということで、事務量が増えるため、4月から、1名先行して増員をする。学芸員についても調整し、体制が出来次第、配置していきたい。

鈴木会長：

事務局からかなり頑張っていた印象の報告を受けた。関連事項を順次、資料にそって進める。

(2) (仮称) 西東京市文化財保存・活用計画について

事務局：

資料2-1参照。文化財保存・活用計画は、先ほど話した通り、26、27年度の2カ年にわたり、策定を考えている。

これまで、文化財の保存や活用をどうしていくか正式に定めたものがなかったが、予算の内示も出たので、来年度から委員会を設置して進めていきたい。

これはイメージであるが、策定委員会設置し、ワーキンググループ等を作り、文化財の専門委員の意見をいただき、住民にも参加してもらおう。策定にはコンサル等も活用する。

先生方には、学識経験を生かして、審議会の中で、意見をいただいていく。

また、これ以外に、下野谷遺跡については、庁内で関連する課長職を集めて、文化財保存・活用庁内検討委員会立ち上げ、10月に開催している。

下野谷遺跡の国指定の問題もあり、先行して立ち上げた経緯もこともあるが、市を挙げて取り組む問題として、一つの文化財を保存するというだけでなく、町作りの一環として考えている。

資料2-2は、今後の文化財保存・活用計画策定スケジュールのイメージである。庁内の計画に沿って進めることになる。市の総合計画ならびに教育委員会の上位計画である教育計画においても定め、進める。

総合計画は市のトップの計画になり、現在、第二次基本構想と基本計画の制定に向けて詰め段階にある。平成26年から35年の10か年の計画となっている。この中に、文化財の保存・活用について計画を定めて進めていく事をうたいこんでいる。

教育計画は、平成26年から30年の5か年の具体的な計画になっている。昨日、教育計画の懇談会の最終的なものが開かれ、この案で教育委員会にはかって決定する流れとなっている。ここには、文化財だけではなく、社会教育に関わる考え方を定めている。

表の半分から下の部分には、文化財の保存・活用計画のなかで、今考えられるそれぞれの整理の方法等を羅列している。不足するものに関しては、その都度計画に落とし込みながら進めていこうと考えている。

鈴木会長：

今後具体的にどう動くのか、審議会の関わり方はどのようになるのか。

○事務局：

策定委員会の中に文化財の審議会の委員の代表の方が入って頂くイメージ。策定委員会は、市民も含め、幅広く入って頂く会であり、文化財保護審議会では平行して、計画づくりに関しての専門的なご意見をうかがっていききたい。

先生方の専門分野でのご意見を生かさせていただきたい。

○鈴木会長：

策定委員会のなかで、文化財調査員とは、どのようなイメージなのか。

○事務局：

市民の調査員というものではなく、これまで、先生方に行っていただいた、専門的な調査も含め、さらに同等の調査をしていただける方を考えている。

石井（則）委員：

調査や保管も順序だてて、予算化し、管理していかなければいけない。そのためにも正規の専門職の配置が必要である。

また、秋に行ったシンポジウムのようなものや、定期的な文化財講演会など、市民の意識を高める活動をぜひやっていただきたい。審議会には専門的なメンバーもいるので、活用してほしい。

冨々良委員：

総合計画は十年計画とあるが、市長が、変わった場合どうなのか。長期的考えの中、短期的、緊急を要することをやらなければいけないとなった場合はどうなのか。

○事務局：

西東京市は計画事業を基本としており、市長が交代したとしても、計画そのものに定めたことは、実施する方針である。細かな部分は考え方の異なってくることもあるが、

計画では大きな柱を作るという位置づけで行っていく。

都築委員：

西東京市文化財保存・活用計画策定委員会は、下野谷遺跡の国指定の調整を含めたものか。あるいは、下野谷遺跡の国指定に向けては、専門家などを含めた単独の委員会を考えているのか。

○事務局：

当初は、文化財保存・活用計画策定委員会の実務型の会として、庁内検討委員会を設置することを想定していた。しかし、下野谷遺跡公園の両隣りの土地の問題が発生したことにより、急遽文化庁とも協議し、市として国指定をめざすこととなり、まち作りの一環で考えていくということで、庁内の検討委員会を先行して立ち上げたというのが実情である。したがって、保存・活用計画ができれば、下野谷に関してはまた、別途組織を立ち上げ、検討していくつもりである。

鈴木会長：

下野谷については、(3)として後で説明をいただきたい。

それ以外では、市の文化財指定が進んでいないことも問題。柱の中に市指定の推進を入れていただきたい。その中では単独の調査だけではなく、例えば、建造物とそれに伴う民俗の調査をあわせる等の総合調査、総合活用をより考えていくべきである。

石井(則)委員：

すべて予算が伴うことなので、順番を整理して、下野谷遺跡の指定に関しても市全体で、長期的に慎重にすすめていくべきだ。

保坂委員：

表の柱の分野の先生が集まれば総合的な調査ができる。

しかし、足りないのは、歴史的な調査、文化的な調査に欠かせない文献、古文書や歴史的な古文書、民間に残されている典籍などの調査であろう。それを加えていただきたい。

近辻委員：

文献、古文書の悉皆調査が不十分。5本柱の大切な基本となる資料調査だ。

保坂委員：

自治体史を作成する際に調査してあった文献でも、時間がたつと代替わりなどで捨てられてしまったりすることがある。少しずつでも進めないと、とても危険な状態であり、確実に進めてもらいたい。

事務局：

そのように進めたい。

保存・活用計画に関しては、もともとは下野谷遺跡の国史跡指定にむけた動きを加速するためにも、市の中で、きちんとした計画に位置付ける必要があるということで、26、27年度に策定することにしてきた。しかし、状況が変わり、下野谷の国史跡指定に

向けては正式に動き出した。本来は、もう少し時間をかけて、国が押し進めている歴史文化基本構想を策定したうえで、保存・活用計画をつくるべきかとも考えるがいかがか。ご意見をいただきたい。

保坂委員：

歴史文化基本構想とは、どのようなものか。

事務局：

文化庁が押し進めているもので、24年2月10日に文化庁から策定指針が文化庁通知で出されている。文化財を総合的に捉え、まち作りなどに活かし、保存・活用していくための自治体の基本となる方針である。この構想に沿って、その後、実際のアクションプランともいえる、保存・活用計画を策定することが望ましいとされている。

保坂委員：

文化庁の策定指針にならって、各自治体が基本構想を作って、計画を落とし込むことが望ましいということか。これは戦略的な問題で、時間や予算の問題が上手く調整できるように、その順序なりを判断するべきかと思う。

石井（則）委員：

庁内の検討委員会は、立ち上げているのか、であれば、検討委員会が、基本方針を決め、進めれば、大丈夫では。

近辻委員：

歴史基本構想の策定にはコンサルなどを活用し、短期間で行っては。

鈴木会長：

これは、市全体の中で、考えていかなければならない。相当きちんとした基本を作ってもらわないといけないのでは。

事務局：

「歴まち法」との関係はどうか。

山下委員：

下野谷遺跡の国指定のことなど、急に走りだし、整えに不備がでないか少し心配もある。

都築委員：

市全体の文化財の保護保存の中で考えていかないと市民の理解が得られないので、保存・活用計画の中に位置付けていく。庁内検討委員会の中で町作りの方向で国指定を考えていけばいいとは思いますが、緊急的なもの、用地買収の問題などもあるので、そこは具体的に示しながら計画的に進めていってほしい。

国は、活用に力を入れており、補助金もいろいろある。地方都市は観光の核に位置付け、補助金を使い活用していたりするが、西東京市では、安全・安心などの観点なども

視野に、他の部署も巻き込み、具体的に進めるべきである。

歴史文化基本構想の中で、下野谷遺跡を位置づける方向でまとめるのが良い。

石井（正）委員：

全体構想と下野谷遺跡のバランスかと思う。全体がきちんと見える中で下野谷遺跡も特化するように、うまく構築できればよい。

事務局：

当初の予定では、文化財保存・活用計画という全体構想の中で、下野谷遺跡をどのようにしていくのかを考えていく予定だったが、用地の問題などが発生し、下野谷の問題だけが急遽先に動き出した。全体計画は、全体計画で作って、その中に下野谷も柱として入れる。さらに下野谷の具体的な計画は別途作っていくということを想定している。

鈴木会長：

物事にはタイミングというのもあるので、応じて、対処すればよい。

山下委員：

文化財をまち作りに活かすのはとてもいいことだが、素案がいつごろ目に触れられるか。

事務局：

市内の文化財全体についてか？下野谷遺跡についてか？

山下委員：

全体としてどのようなまち作りを考えていて、その中で下野谷遺跡がどの程度活用できるのか、あるいはほかの文化財と比べてどうなのかなどの判断材料がほしい。

鈴木会長：

総合計画の中に組み込まれているので平成26年度には見ることができるということか。

事務局：

総合計画には織り込んである。

鈴木会長：

総合計画の中には、歴史的なもの、文化財を上手く組み込んでいただく。

石井（則）委員：

基本計画をきちんと作り、あとは国、都などと調整をしながら進めていけばよい。

(3) 下野谷遺跡の指定について

事務局：

資料3参照。大きな動きについて抜粋して報告する。

7月に両隣の土地問題が発生し、下野谷遺跡を保存・活用し、国史跡を目指そうという動きが加速した。所有者の関係者から公有地として市で活用してほしいとのお話もあり、市長ほかとも調整し、10月に文化庁に行き、国の見解を確認したところ、高い評価をいただいたことで、市としては、国指定に向けて調整に入ることとなった。そこで、再度11月に文化庁と調整を行い、指定にむけた具体的な方法、スケジュールを確認した。用地の購入に関しては、市の単独予算では、困難だが、国の補助金で8割、残りの半分を東京都の補助金で、市が1割ということで考えをすすめた。

また、下野谷遺跡の全体を知るため、早稲田大学所蔵の資料見学に行った。12月18日は、文化庁記念物課の主任調査官である禰宜田氏と東京都担当者に遺跡を視察していただいた。合わせて、周辺で展示施設の建設を想定できうる場所なども見ていただいた後、市長、副市長、教育長を交え意見交換会を行った。大変評価は高く、また本来は、検討委員会などを立ち上げて、遺跡の全体像を捉え、指定候補地を選定し、その中の土地所有者の大方の同意を得ることが指定の前提となる流れではあるが、今回の緊急な案件では、一部の土地のみの先行した指定もやむなしとのご意見もいただいた。市長も国史跡指定に向け、前向きに取り組むと答えた。これを受け12月最終勤務日に、本市としては、下野谷遺跡の国史跡指定に向け、正式に調整に入ることを決定した。

今後は、まず、2月6日に文化庁と3回目の協議をもち、7月に意見具申を提出、秋の文化審議会での答申を受け平成27年2、3月に告示ということを用意している。ただ、とてもハードなスケジュールになるので、文化庁や都、専門の先生方のご指導を受けながら進めていくことになる。

その後は、住民説明会などを経て、長いスパンで同意を得ながら追加指定をしていく。保存・活用計画を、最初の指定後すぐに作成をはじめ、それにしたがって整備を進めていく。

鈴木会長：

展示施設については。

事務局：

整備の中に入れて考えたい。今は郷土資料室があるが、暫定的な施設であり、博物館のようなものを作る意見が議会などからも出てはいるが、難しい。そこで、下野谷に展示施設を設置するにあたり、できれば、その機能をあわせていく方向を考えている。

近辻委員：

用地購入に関して、市有地との等価交換やほかの計画事業の予算などからの変更などは難しいのか。

事務局：

現実的には難しい。

下野谷の案件は、急遽あがってきたもので、これから議会などにもかけていく。計画にもまだ上がっていないものではあるが、緊急なものとして、今は異例な対応をしていると考えていただきたい。

石井（則）委員：

東京に縄文時代の集落を残したいという意識が国にもある。下野谷は東京を代表する縄文時代の集落である。じっくり構え頑張ってもらいたい。

(4) 文化財事業実施報告

事務局：

資料4、5参照。前回の審議委回以降に実施した事業報告。

埋蔵の文化財の調査は1件。下野谷遺跡での立会い。

普及事業として秋に行った「幻の民族学博物館」は参加者167名。

冬講座は伊勢型紙で年賀状を作成するもので、参加者18名。

学校支援事業として、郷土資料室への3年生の団体見学と出前授業を行っている。評判も良いので、できれば全校で行いたい。

毎年恒例の文化財防災訓練、文化財防災デーにあわせ田無神社で行った。

多摩郷土史フェアに参加。これまで、書店での販売をしていたが、今年は、各市が独自に販売する形となり、立川市の女性総合センターで行った。各市の刊行物を一堂に扱える場はこしかないので、来年以降も参加していきたい。

都築委員：

立会い調査について詳細を教えてください。

事務局：

西側の集落縁辺から、少し急に西側に落ちているところ。現状でみるよりも、かなり階段状に地形はおちている。縄文時代の包含層の残りはとても良かったが、遺構が検出できなかった。集落域を外れているか。

鈴木会長：

下野谷遺跡の企画事業に関して説明をしてほしい。

事務局：

下野谷の指定の話が持ち上がったため、啓発事業を積極的に行っていこうということで、急遽決まった。東伏見駅前に早稲田大学の施設があり、早稲田も連携をしたいということだったので、共催事業として位置付けた。講演内容も早稲田の近藤二郎先生に、文化遺産を町の財産としてどのように活かしていくかという話をお願いした。

鈴木会長：

今後は市民が興味を持って参加できるような企画を多くしてほしい。応援隊をつくるなどもよいだろう。

事務局：

来年度に関しては、学校とタイアップしたい。また、啓発グッズの作成、アニメーションの作成など、子供たちにもっとわかりやすく、身近に感じてもらえるようなことを考えている。いろいろとまたお知恵を借りたい。

近辻委員：

一般市民や地元議員も巻き込み盛り上げてほしい。

石井（則）委員：
学会発表も行うべき。

近辻委員：
総括報告書はどうなるのか。

事務局：
前回出したものは「1」分冊目なので、指定に向け、秋口に、さらに1冊を刊行することが必要。

都築委員：
考察部分をいれた総括報告書の作成を。ご協力します。

事務局：
先生方のお力を借りて行っていきたい。スケジュールもタイトであり、職員の増員なども求めていくが、まずは、みなさんのお力を頼りたい。

議事1 協議事項

(1) 登録文化財制度など、今後の協議事項について

鈴木会長：
登録文化財制については、これまで継続して審議をしてきたが、建議の作成が間に入り、少し時間が空いてしまった。今日は、時間もないので、次回以降、これまで審議内容をおさらいし、再度進めていきたい

事務局：
これまでの先生方のお話で、登録文化財制度を導入するという事までは、まとまった。問題は、西東京市に適した登録文化財制度はどんなものかといこと。無理のない形も物を作りたい。
たとえば、公開義務や補助制度をどうするかということなど。大きくは、文化財をリスト化していくような登録文化財制度にするのか、それとも補助金制度などを含めた保護を大きくうたうようなものにするのか。そのあたりに焦点をあてて、次回これまでの審議内容をまとめてご説明したい。

その他

事務局：
次回の審議会は5月23日を予定したい。

鈴木会長：
以上で本日の会議を終了する。